

# 春風秋霜 2月号

令和5年2月20日  
島田市教育委員会日より  
教育長 山中史章

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

## 1 金谷にフレックスハイスクールが開校します

島田市には、四つの公立高等学校と一つの私立高等学校があります。今回は、現在金谷高校がある場所に、フレックスハイスクールができるという情報です。

志太榛原地区に新しい構想の高等学校を作ろうということで、静岡県教育委員会は、金谷高等学校のところに、静岡県立ふじのくに国際高等学校をつくることにしました。新しい構想の高等学校は、大学のように、自分のペースで通学時間や時間割を決められる、

多部制単位制の高等学校です。パンフレットには、右のように学校の情報が掲載され、『2024年4月

学校情報



学校名: 静岡県立ふじのくに国際高等学校

- ・設置場所: 現在の金谷高校校地(島田市金谷横岸町)
- ・開校時期: 2024年4月
- ・設置学科: 普通科(単位制)
- ・募集規模: 160人(4学級規模)/年(※2023年秋に確定)
- ・日課: 3部制[午前(I部)・午後(II部)・夜間(III部)]
- ・学期: 2学期制(前期:4/1~9/30 後期:10/1~3/31)

から開校!生徒一人ひとりの学習スタイルやニーズを尊重し、新しい時代に対応した教育を通して、地域社会に貢献できる人材を育成!』と書かれています。特徴の一つは3部制をとっていることです。全日制の高等学校のように、朝から通学して8時間目まで勉強して帰ってもよし(I部)。朝は時間に余裕が欲しいという人は、昼から通学してもよし(II部)。昼間は別の活動に集中したいので、夕方から通学してもよし(III部)。というように時間も自由に選択できるようになっています。

自分が所属する部以外の授業を選択することもでき、3年間で卒業することも可能だし、4年間かけてゆっくりと学ぶことも可能です。また、普通科の単位制高校ですが、一般的な教科に加えて、商業、家庭、体育、音楽、美術、書道等の専門教育に関する選択科目が用意されており、様々な進路希望に対応できるようになっているそうです。大学のように自分が必要だと考える単位を選んでいくというのも楽しいですね。また、豊かな自然環境や観光資源を活用して、グローバルかつ多面的な視点で探求的な学びを展開するということです。社会人になってから、自ら考え、活用できる力をつけるためには、探求的な学びがとても有効になってきます。

ふじのくに国際高等学校の大きな特徴の一つは、世界的に評価の高い教育プログラムである「国際バカロレア教育」の2026年導入を目指しているということです。「バカロレア教育」とは何だろう、初めて聞く言葉だという方も多いと思いますので、「バカロレア教育」を紹介してみたいと思います。文部科学省では、国際バカロレア教育推進コンソーシアムと入力すると詳しい内容が書かれたHPを用意しています。今回、HPを参考に、国際バカロレア教育について説明したいと思います。

### 【IB(国際バカロレア)教育とは何か?】

国際バカロレア機構(本部ジュネーブ)が提供する国際的な教育プログラムのことです。国際バカロレア(IB:International Baccalaureate)は、1968年、チャレンジに満ちた総合的な教育プログラムとして、世界の複雑さを理解して、そのこと

に対処できる生徒を育成し、生徒に対し、未来へ責任ある行動をとるための態度とスキルを身に付けさせるとともに、国際的に通用する大学入学資格（国際バカロレア資格）を与え、大学進学へのルートを確保することを目的として設置されました。認定校に対する共通カリキュラムの作成や、世界共通の国際バカロレア試験、国際バカロレア資格の授与等を実施するためのプログラムです。

グローバル化に対応できるスキルを身に付けた人材を育成するために、生徒の年齢に応じた教育プログラムを提供しています。

令和4年5月時点、世界159以上の国・地域、約5,500校において実施されています。バカロレア教育では育てたい人物像が、10の人物像で示されています。

- ① 探求する人    ② 知識のある人    ③ 考える人    ④ 信念をもつ人
- ⑤ コミュニケーションができる人    ⑥ 心を開く人    ⑦ 挑戦する人
- ⑧ 思いやりのある人    ⑨ バランスのとれた人    ⑩ 振り返りができる人

世界に通用する人材育成を目指して、一人ひとりに合った教育が行われていくことと思います。静岡県立ふじのくに国際高等学校が、目標を持った子供たちによって、素晴らしい学校になることを期待しています。

## 肘かけ椅子

# 「新“親学ノート”」

教育委員 高杉 陽子

ペアレントサポーターとして、小学校の入学説明会などで、「親学ノート」を使った「よりよい親子関係を築くポイント」を保護者にお話しています。小学校生活を経験した先輩でもあるので、「ぜひ伝えたい！」ことはもちろん、「こうするとラクだよー」というコツもお話します。

心掛けていることは、想像しやすい言葉で伝えること。例えば、「子供の目を見て、うなずいて聞きましょう」。それから、“私にも（うちの子でも）できる”ことを提案すること。「今日、手をつないで帰ると、きっとお話がはずみますよ。『がんばったね』ってハグしてあげて下さいね」。また、入学前に身につけたい生活習慣についても、「焦らなくても大丈夫。子供や家庭のペースで、できることから」と言うようにしています。

途中、子育ての失敗談を入れるのですが、その時は皆さん、顔を上げてじいっと見てくれるんです。

「私、子どもが寝た後の時間割チェックが、ずうっと止められなくて…。先生に打ち明けたら『そろそろ止めましょうね』と言われて、我慢できるようになりました。」

「実は…うちの息子、ハンカチで手を拭くようになったのは、中学生になってからで…」

私だって、怒って泣いて仲直りの繰り返しです。凹んでは、周りの人から励まされています。

「親学ノート」は、今年度ブラッシュアップされ、社会教育委員の提言“子育ては親育て！”も引用しました。多くの方々の思いが詰まっています。

